

生物機能を活用した難治性疾患治療の新時代

嘉糠 洋陸

東京慈恵会医科大学 熱帯医学講座

バイオセラピーとは、人間以外の生物が持つ様々な形質を積極的に利用した治療方法である。狭義には、動植物から抽出した物質に対する人体の細胞レベル・組織レベルでの応答を基盤とするものであり、免疫療法などが含まれる。一方、広義のバイオセラピーは、昆虫や寄生虫など動物の生存に必要な機能をそのまま治療に適用するものである。ミツバチの蜂針、ナメクジ由来の止血剤、ヒルによる瀉血などが挙げられ、古くから伝統医学・軍陣医学などにおいて欠かせないものであった。近年になり、限られた医療財源の有効利用の必要性、難治性疾患の増加、個人のQOLの高まりなどから、安価かつ効果的な代替治療法の候補として、バイオセラピーを再検証する機運が高まっている。今回の講演では、寄生虫である豚鞭虫の卵の内服による潰瘍性大腸炎・乾癬治療を目指した臨床試験、ヒロズキンバエの幼虫を医療用ウジとして用いた難治性創傷に対する治療法の開発など、我々の最新の研究成果を紹介しつつ、バイオセラピー研究の面白さとその将来性について議論したい。

略歴

- 1991年3月 山梨県立甲府南高等学校 卒業
- 1991年4月 東京大学教養学部理科II類 入学
- 1997年3月 東京大学農学部獣医学科 卒業
- 1998年4月 日本学術振興会特別研究員（DC1）
- 2001年3月 大阪大学大学院医学系研究科博士課程 修了 博士（医学）
- 2001年4月 理化学研究所 基礎科学特別研究員
- 2003年2月 米国スタンフォード大学医学部 研究員（日本学術振興会海外特別研究員）
- 2005年12月 帯広畜産大学原虫病研究センター 教授
- 2011年6月 東京慈恵会医科大学 熱帯医学講座 教授
- 2013年8月 文部科学省 学術調査官（兼任）
- 2015年4月 東京慈恵会医科大学 衛生動物学研究センター センター長（兼任）